

【寄稿】

学友会と募金(寄付)活動

学友会副会長 西谷源展

学友会会員の皆様には学友会活動にいつもご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、過日に大学グラウンドの整備に関する寄付金募集のお知らせをしております。募金目標総額は1億円で、学校法人である「島津学園」が主体となって実施していますが、大学、保護者会、学友会が協力して募金活動(寄付金募集)を行っています。学友会会員の皆様におかれましては1口でも結構ですので寄付金募集に是非ともご協力をお願い申し上げます。

このような大学への寄付は、他大学では日常的に行われています。特に近年では私立大学の約1/3以上の大学で少子化の影響を受け学生募集でも定員割れを起こしています。このような状況で各大学では卒業生を中心に募金活動が活発に行われています。母校におきましては学生募集において定員割れはなく順調に推移しており、今年の入学試験では昨年より応募者が増加しており喜ばしい状況です。

学友会ではこれまでに幾度かの寄付金募集活動を行ってきました。昭和36年(1961)頃からレントゲン技術専修学校(当時は各種学校であった)を日本で初めての短期大学にしようとする気運が高まっていました。当時の理事長も積極的に短期大学設立に意欲を示され、昭和39年(1964)学友会では全国支部長会議の決議で「母校短大建設募金委員会」を結成して1口1万円で、卒業生会員数約1,200名に募金要請をされ、目標額1,000万円の募金活動がなされました。当時の給与からすれば卒業生の初任給は約1万円程度と思われるので、新卒の卒業生からすれば1口は月給の1か月分に相当することになります。昭和40年2月には募金申込額は739万円となっていました。この計画は当時の文部省に申請され、校舎等の建設がなされれば日本で初めての診療放射線技師を養成する単科の短期大学が実現していたはずですが、推進役の理事長の急逝、景気の低迷から資金が思うように集まらず、設立を断念しました。この募金の739万円余りは短期大学の設立にしか使用しないとしたために学友会で保有しました。

昭和52年(1977)の創立50周年にあたり学校法人設立の為に寄付が要請され、739万円が利息等で1,486万円と増え将来は短期大学にすることを目標として全額が寄付されました。昭和57年に横地節男理事長となり、当時の鳥山英明校長、清水篤三学友会長が短期大学設立の要望を行った結果、短期大学設立の決定がされました。学友会でも再び短期大学昇格募金活動を行いました。1口2万円で卒業生には2口以上の寄付を要請しました。昭和61年(1986)4月に募金を開始し、当時の卒業生は約2,000名のうち最終的な募金者は1,171名、募金総額5,307万円が寄せられました。募金額は当時の給与から初任給の1/2程度と思われます。短期大学は平成元年に実現し短期大学では体育館を「学友会記念ホール」と命名されました。

4年制大学設立は平成18年(2006)頃からはじめられ「4年制大学昇格募金委員会」を設置して活動を行いました。4年制大学は平成19年4月に実現しました。この時、卒業生801名をはじめ、各団体等を含めて約3,500万円が寄付されました。

その他、昭和54年(1979)には専門学校の増築資金として720万円の寄付を行いました。平成9年(1997)には創立70周年記念事業の寄付金募集を行い、616件、515万円が寄せられました。この時の資金の一部は現在バーベキューを行っている「あずまや」の建設資金となっています。

このように母校の歴史と共に母校への募金(寄付金)活動を行ってきました。これらの活動から先輩方の努力を理解していただきたいと思います。今回の募金活動についても目標達成のためによりしくご協力をお願い申し上げます。

以上